### 展示解説員の声

### 体験もできる情報室

博物館の1階にある情報室は、約4700冊の図書の閲覧やビ デオ・DVDの視聴はもちろん、岩石や貝、昆虫や植物の標本も 数多く置かれていて、さまざまな分野の調べものをすることが できます。

なかでもおすすめは、体験資料のコーナーです。土器や、時 代劇でよく見かける十手など各分野の資料を触ることができる ようになっています。模様の凹凸や重さを自分の手で確かめて みてください。子ども向けには、鳥の剥製や桶の組み立てパズ ルなども置いてあり、ご家族連れでも楽しんでいただけます。 ご来館の際には、ぜひ情報室にもお立ち寄りください。(園田)



# 世

















講座の申込みは、次の方法で受付けます。

### 今昔、日本の妖怪」

### トミュージアム

8月1日金・22日金は開館時間を延長し、 21:00まで開館します。入館は20:30まで。

8月1日 (19:00~20:00) 8月22日 (19:00~20:00) ☆チケットか半券が必要です。

演題 「現代の怪異と妖怪文化」

常光徹氏(前国立歴史民俗博物館副館長)

8月23日 13:30~15:00 当日、12:30から入場整理券を配布します。チケットか半券が必要です。

定員 100名(先着)

観覧時間・ 休館日の お知らせ

観覧時間 休館日 9:00~17:00(入館は16:30まで)

毎週火曜日(火曜日が祝日の場合は翌日)

★夏休み期間7/18~8/31は、8/10月のみ休館 ★9/7月~18 金は館内燻蒸のため休館いたします。 ログなどの情報が盛りだくさんです。 ぜひアクセスしてみてください。

> 宮崎県総合博物館 「妖怪絵巻」東洋大学附属図書館蔵

博物館のホームページにはイベント情報、 寄せ られた質問とその答え、過去の「森の通信」、職員ブ

の通信

発行日/2015年6月30日

第58号

発行/宮崎県総合博物館 〒880-0053 宮崎市神宮2丁目4番4号 TEL(0985)24-2071 http://www.miyazaki-archive.jp/museum/ E-mail;hakubutsukan@pref.miyazaki.lq.jp FAX(0985)24-2199

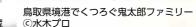
2015年 7/18<sup>2</sup> 8/31<sub>8</sub>

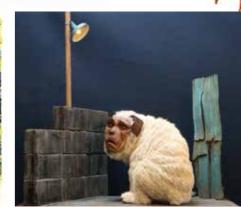
観覧時間 9:00~17:00(入場は16:30まで) 観覧料 大 人 1000円(800円) 小中高生 600円(400円)

( )は20名以上の団体及び前売り価格

妖怪がどのように生み出されたのか、 県内に伝わる妖怪について紹介 怪のミイラ、妖怪について記述された史料などを展示します。 します。 時代とともにどのように変化 日本の歴史や社会のなかで







化物婚礼之図 鬼(部分)本館蔵

人面犬 (本館蔵)



### 講座紹介

# 実物でつくる「ミニ岩石図鑑」

博物館を飛び出して日之影町役場で行 った、実物でつくる「ミニ岩石図鑑」を紹 介します。日之影町の大地は、秩父帯や 四方十帯、 光崩山の花崗岩やそれを取り 巻く花崗斑岩、傾山の火山岩、阿蘇火砕 流堆積物などが分布しています。 そのた め、川原に転がっている石の種類も豊富 です。今回は、日之影町役場研修館で博物 館が事前に採集した日之影町産の岩石の 小さな破片を使って台紙の上に両面テー プで固定し、「ミニ岩石図鑑」 を作っても らいました。そして完成した「ミニ岩石図 鑑|を手に、役場前の五ヶ瀬川河川敷に出 て、実際の川原の石の種類を調べました。 わかりにくい石の名前ですが、 作成した 「ミニ岩石図鑑」と見比べることで、参加 者にとってはより身近なものとなったよ うです。(松田)



### 宮崎の自然史情報

## 落葉の季節は「秋」?

落葉といえば「秋」を連想するのが一般的ですが、 春から初夏にかけて葉が落ちてくるようすを見るこ とがあります。

樹木は大きく分けて「針葉樹」と「広葉樹」に分けられ、さらに広葉樹は秋に落葉する「落葉広葉樹」と、春に落葉する「常緑広葉樹」に分けられます。

サクラやケヤキなど秋に落葉する落葉広葉樹は、 寒くて降水量の少ない冬をのりきるためですが、比 較的暖かく降水量の多い南国宮崎では、ツバキやク スノキなどの常緑広葉樹が新しい葉が出てくる時期 に落葉するのです。写真の「ユズリハ」は、新葉が 出る早春に古い葉を落とす常緑広葉樹です。このよ うすを、親が子を育て家が代々続いていくように見 立て「譲り葉」と名付けられました。ユズリハは縁 起物として正月飾りに使われます。(岩切)

### 歷史展示室紹介

# 完璧な玉「穀璧」(レプリカ、原資料は前田育徳会蔵)

歴史展示室に入ると、中央に円い穴のあいた円盤の形をした「玉璧」があります。「玉璧」は中国で貴族階級のシンボルとして作られ、朝貢や祭祀に使われていたようです。展示室の「玉璧」は、両面に穀物に似た文様があることから「穀璧」とよばれています。

「穀壁」が納められた木箱の箱書には、文政元年(1818)に「日向国那珂郡今町村」すなわち宮崎県串間市付近で出土したと書かれています。また「多氣志廬蔵」と墨書され、伊勢国出身で幕末の探検家である松浦武四郎(1818~1888)が一時期所蔵していたことがわかります。

出土地や所蔵者の変遷など謎が多いのですが、全く欠けた部分のない、いわゆる完璧な「穀壁」(径33.3㎝、厚さ0.6㎝、重さ1600g)を所有する有力者が宮崎県内にいた可能性を伝える資料です。(籾木)



### 和名:トウキョウダルマガエル 学名:Rana porosa porosa

# 収蔵資料紹介

### 透明骨格標本

透明骨格標本は、特に小動物の細かな骨格を観察するためにいろいろな薬品や染色液を用いてつくられる標本です。

染色液には軟骨を染色するアルシアンブルーと硬骨を染色するアリザリンレッドが用いられます。アルシアンブルーによって染色された軟骨は青色に、アリザリンレッドによって染色された硬骨は赤色になります。このため、硬骨と軟骨の関係が色によって区別でき、硬骨と軟骨の位置関係や骨格の立体的な構造を観察するのにとても役立ちます。

中学2年生の理科の教科書にも透明骨格標本の写真が載っていて、いろいろな動物の骨格を比較することができるようになっています。このように、透明骨格標本は動物分類の研究や比較解剖の研究などにとても有効な標本です。(外山)

# 利用者からの問合

# \お問合せTOP1/ ・**柄鏡**



総合博物館には、多くの方々からたくさんのお問合せが寄せられます。歴史に関しては、1年間に200~300件のお問合せがあります。そのなかで最も多いのは、柄鏡についてのお問合せです。

柄鏡は、左の写真のように細長い柄がついており、背面に文様が描かれている鏡です。室町時代後期から、西洋のガラス製の鏡が広まる明治時代まで作られました。文様には、鶴や亀、松竹梅の寿模様、「伊勢物語」「源氏物語」等の文学や和歌、故事を題材としたものなどがありました。また、多くの柄鏡に「藤原重永」や「若狭天下一」といった鏡師銘が入っています。

江戸時代は、それまでと異なり平和で経済的にも豊かになり、化粧をしたり髪をきれいに整えたりする女性も増えてきました。そのなかで柄鏡は、江戸時代末から明治時代にかけての女性の婚礼道具のひとつとして大切に使われるようになりました。そして、その方が亡くなった後、その柄鏡が形見となり、その家の宝として現在まで伝わってきたのではないでしょうか。(佐藤)